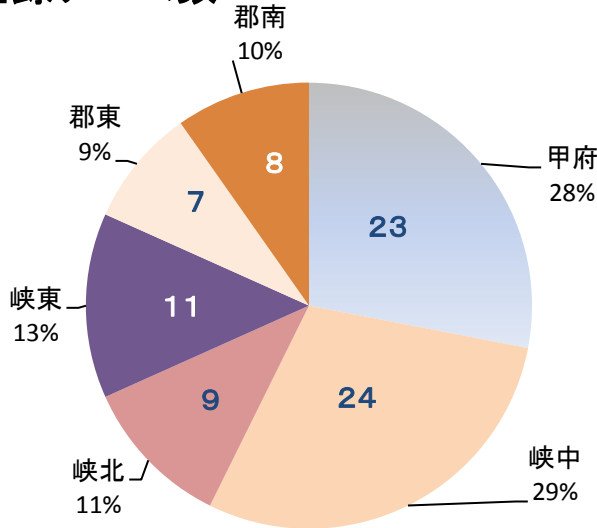


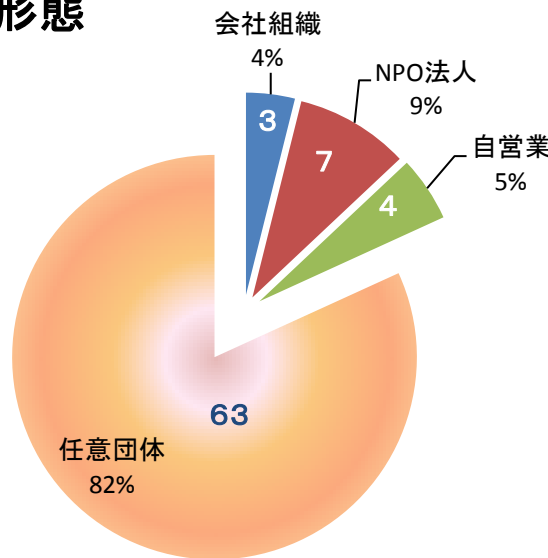
地区別登録チーム数



登録チーム数は、甲府、峡中がそれぞれ約3割、他の地区は1割前後である。このことは、地域でのリーグ戦の実施方法や組み合わせのベースとなるが、場合によっては、地区を超えたフレームを考える必要性もあることを窺わせるものである。

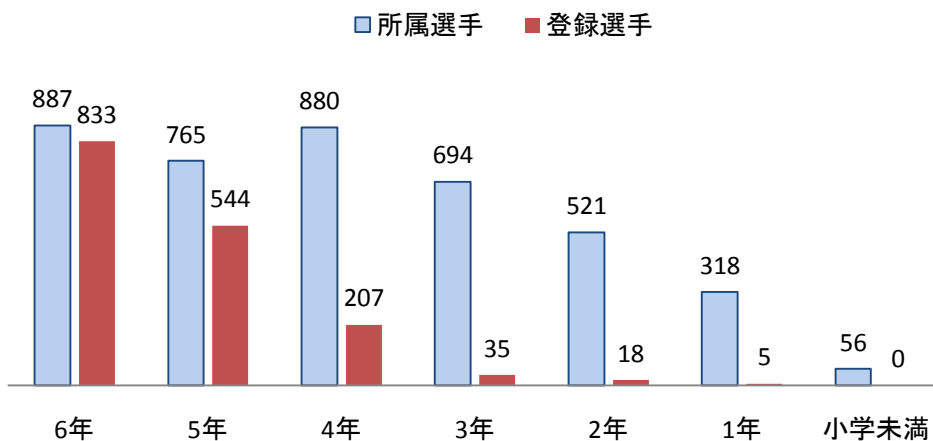
登録チーム数	82	回答数	75
2チーム登録	2	未回答数	5

チーム組織形態



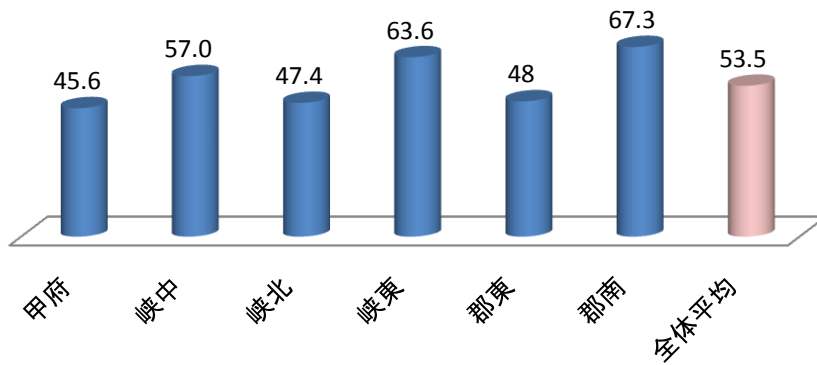
登録チームの82%が任意団体(スポーツ少年団)である。街クラブの形態は、会社組織、NPO法人、自営業形態をとっている。スポーツ少年団が多いことは、それぞれの指導者の関わり方などにも影響すると考えられ、4種組織運営や大会運営においても、自発的な協力を得るための意識醸成が重要と言える。

所属選手数と登録数(まとめ)



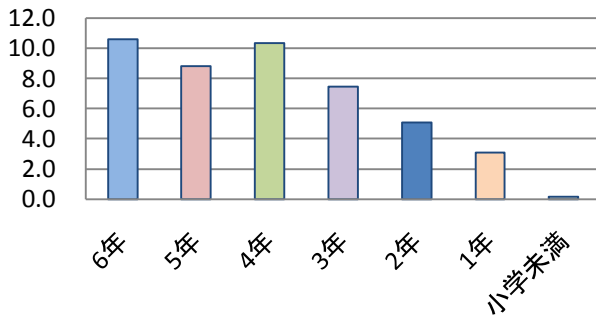
所属選手数と登録選手数には差がある。1チーム当たりの所属選手(全学年計/チーム数)は、53.5人であるが、全選手が登録されているわけではない。(平均21.4人)大会参加の最低人数で登録する傾向が見え、4種登録のメリットと費用負担の関係がうかがえる。

地域別平均所属選手数

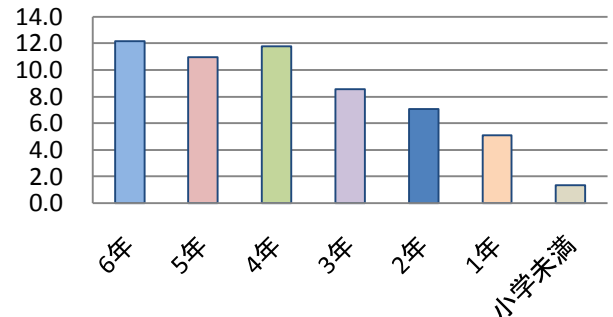


地区別平均所属選手数は、郡南、峡東、峡中が県平均を上回っているが、甲府、峡北、郡東は県平均を下回っており、その差は10～20人ほど開きがある。
地域別に学年構成を見ると総じて低学年の所属選手が少ない傾向だが、郡南、峡東では2年生時に他地域より多くなっている。

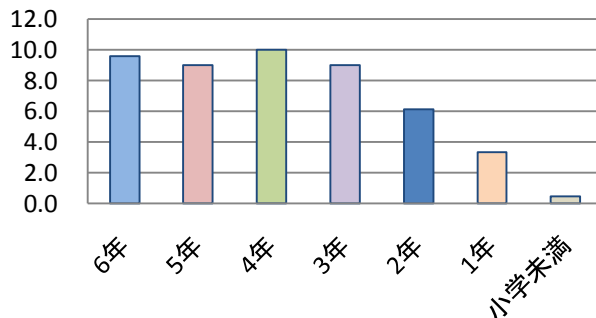
甲府



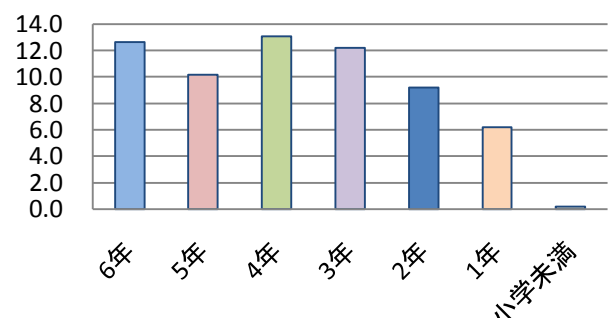
峡中



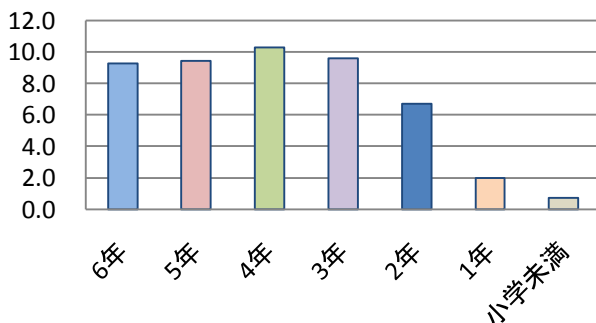
峡北



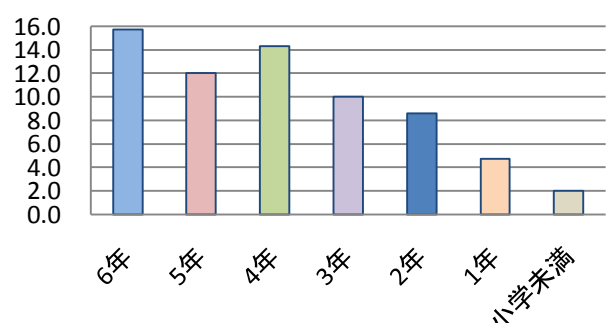
峡東



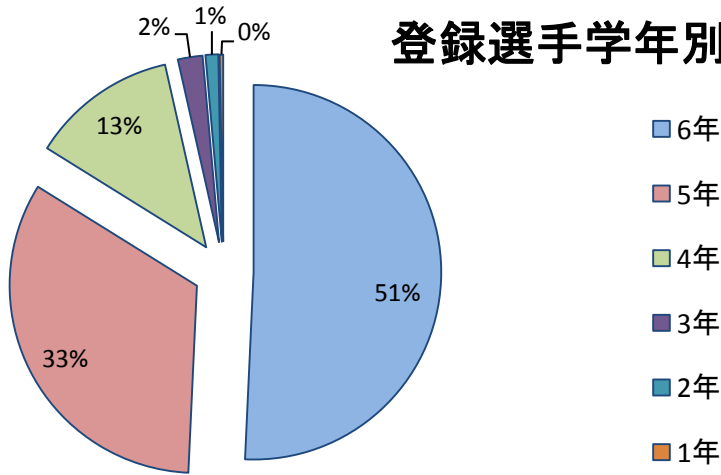
郡東



郡南



登録選手学年別割合



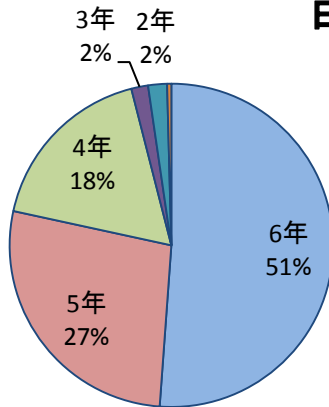
登録選手の学年別割合では、6年生が50%を超えているが、5年生33%、4年生13%となっており、平均登録人数の21人を考えると、登録にあたって複数学年でのチーム構成を余儀なくされていることが分かる。

地域別にみると、甲府、峡中、峡東は、6年生、5年生、4年生で登録のほとんどを占めており、6年生の補完を5年生、4年生がしていることが分かる。特に、峡東では、3年生以下の登録がなく、6年生が64%を占めており、他の地域とは異なった景色を見せている。

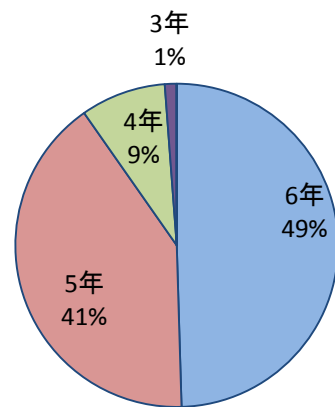
一方、峡北、郡東、郡南では、6年生の登録割合は50%を割り込んでおり5年生以下(特に5年生)の登録割合も大きい。郡東では、6年生と5年生の割合がともに45%となっており、峡中、峡東同様1、2年生は登録されていない。

こうした地域の特色は、所属人数が少ない中で低学年まで登録(試合に出す)せざるを得ないという背景とも考えられる。

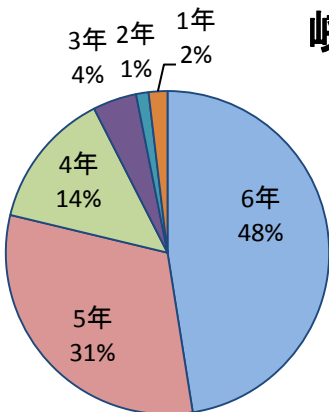
甲府



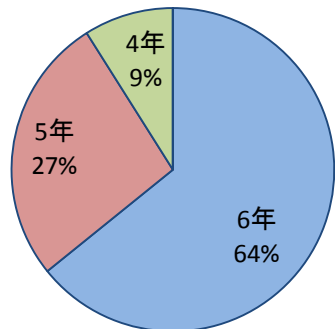
峡中



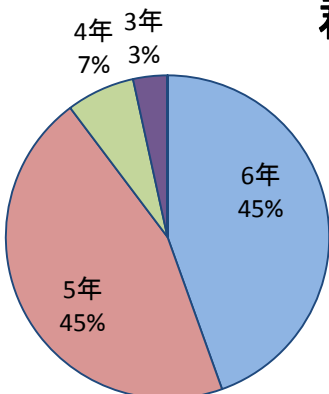
峡北



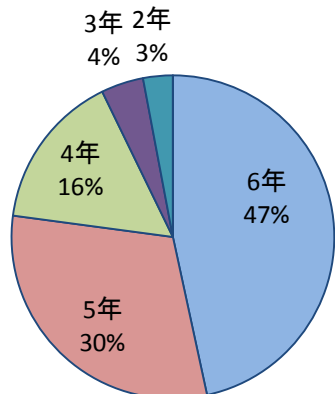
峡東



郡東

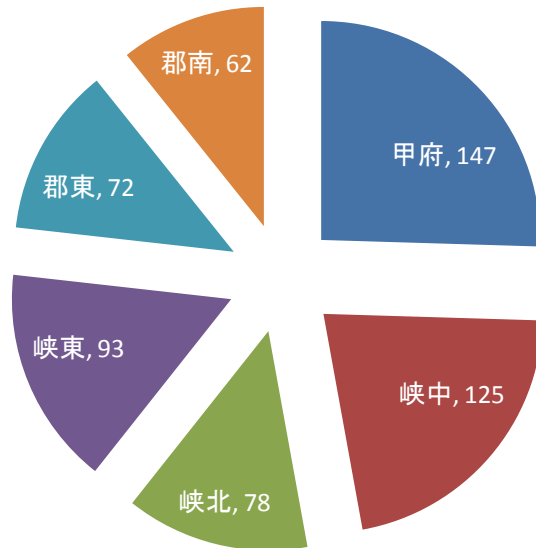


郡南

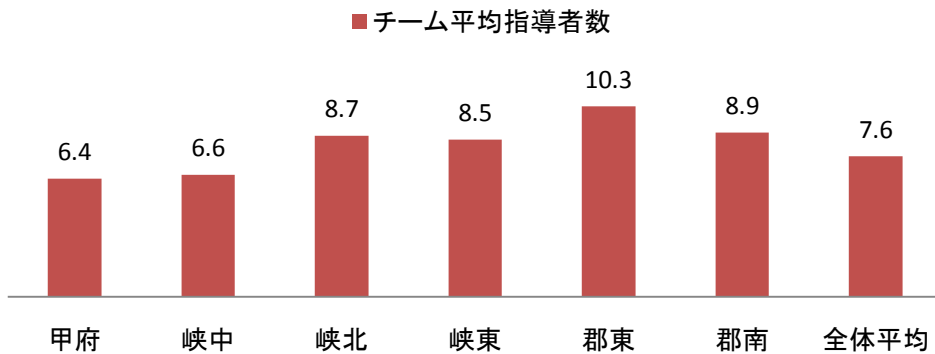


指導者数

指導者総数は、回答チームの総数(有効数)が577人であった。地区別の内訳は、右のグラフの通りである。各地区チーム数の違いから、チーム平均の指導者数が異なり、活動へのかかわり方も違っているようだ。背景として、チーム形態や職業指導者の有無、も関係しているように思われる。このことは、今後の4種委員会の事業運営や選手の育成環境を作る上でも重要なポイントになりえる。

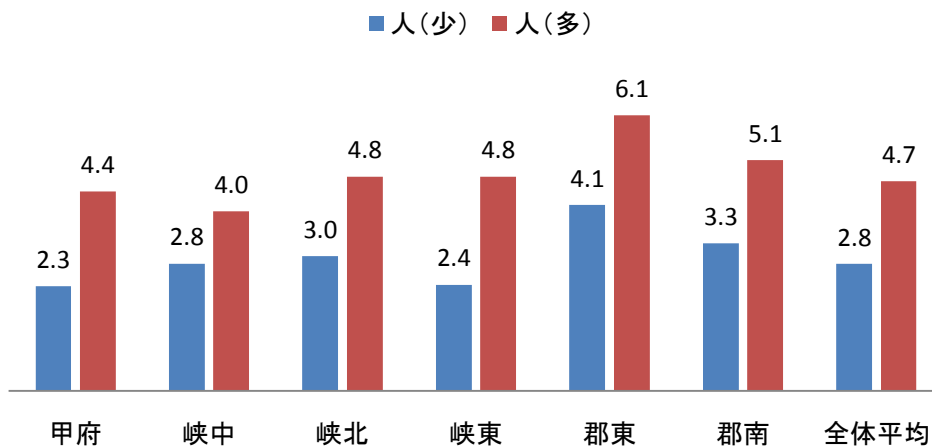


チーム指導者数

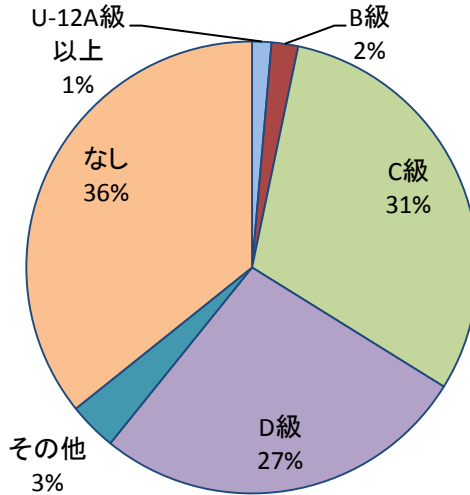


指導者は、全体平均では7.6人となっている。甲府、峡中の指導者数の少ない要因はどこにあるのか。また、練習に関わる指導者数と比較すると、郡東地区の指導者の多さが際立っている。

1回の練習に関わる指導者数

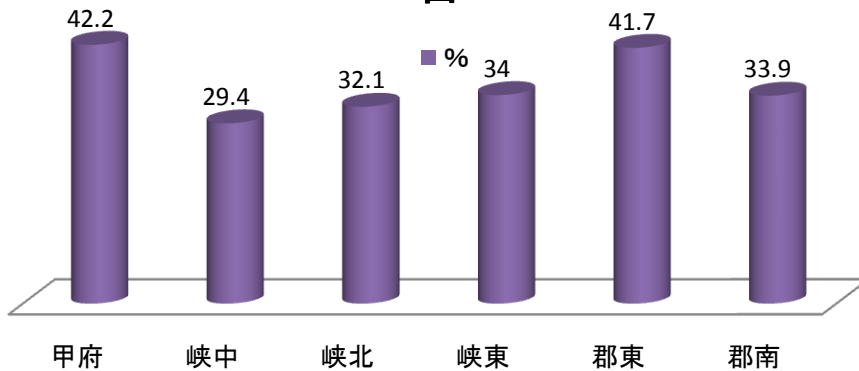


指導者ライセンス 取得状況



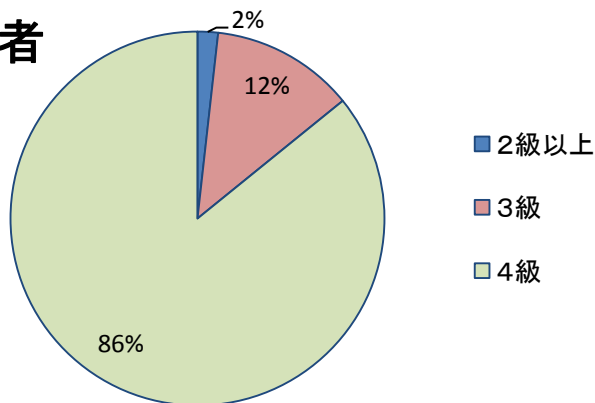
指導者ライセンスの取得状況は、左のグラフに示す通りである。資格取得をしていない36%の指導者の存在を取得に向けさせることが、選手の育成環境を変えるポイントとなる。

地区別指導者のライセンス「なし」の割合



甲府、郡東の割合が高い。甲府は、チーム平均指導者が少ない中でその割合が高くなっている。逆にチーム指導者数が最も多い郡東の割合が高いことは何を意味しているのか。

審判資格者



審判資格取得者のほとんどが4級審判である。上級審判員を増やすための課題を抽出する必要性を感じる。

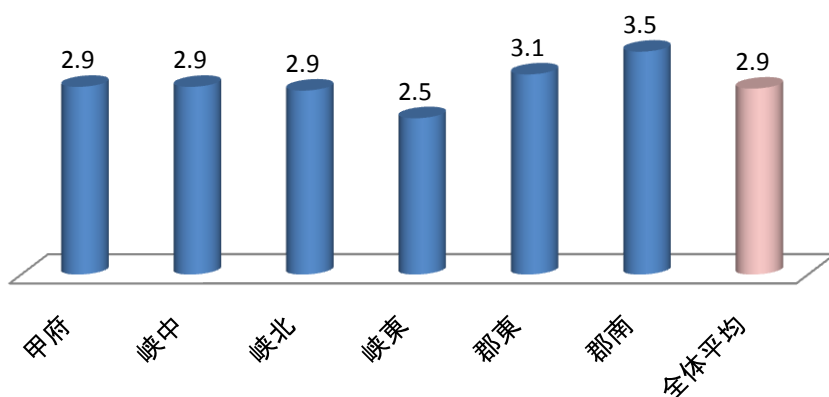
各チーム指導者報酬形態

①給与等 ②謝礼 ③指導部助成 ④なし



指導者の報酬形態を分類してみた。詳細は不明だが、試合での飲食や指導者負担の弁償等を含めると、ボランティアといっても情熱だけで指導はできない時代を物語っている。

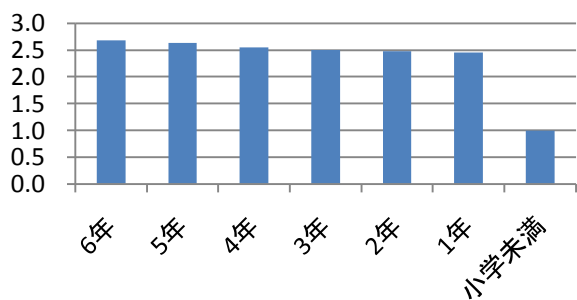
地区別活動日数(週)



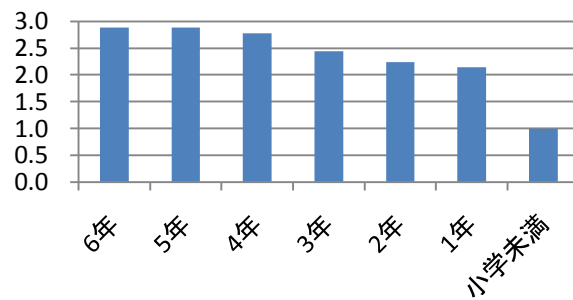
活動日数は、週平均2.9日である。
チームの規模や活動形態にもよると思われるが、指導者数の多い郡東、郡南地区の活動日数が多い。低学年では回数も少なくなる傾向があるが、同回数に近い地区は、所属選手数の関係も考えられる。

地区別活動回数(学年別)

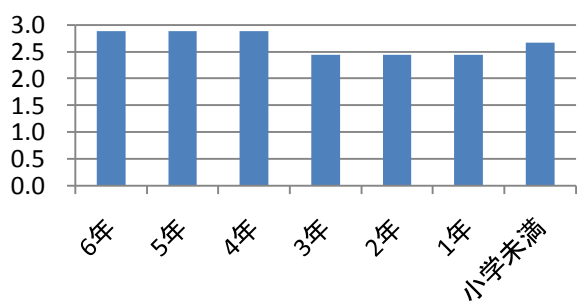
甲府 (回/週)



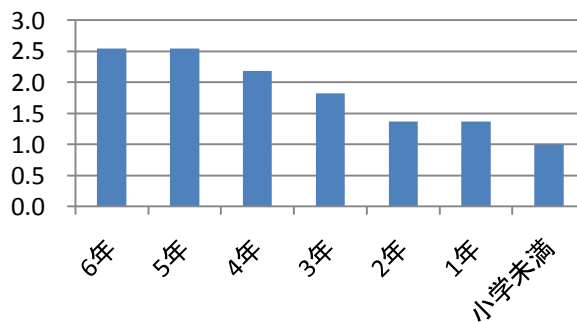
峡中 (回/週)



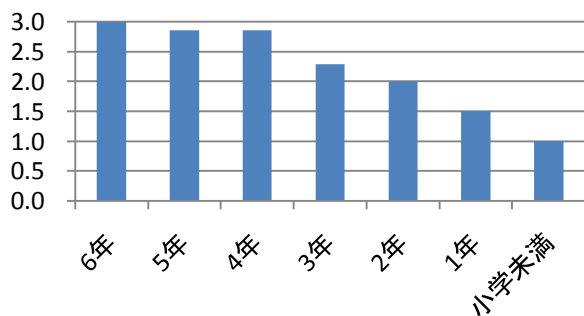
峡北 (回/週)



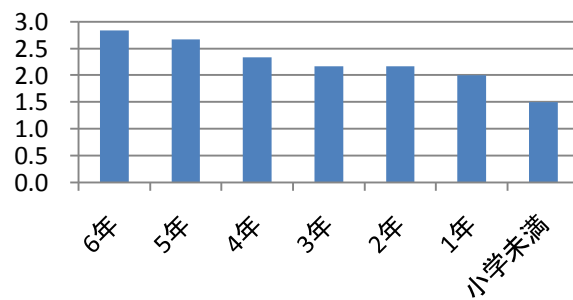
峡東 (回/週)



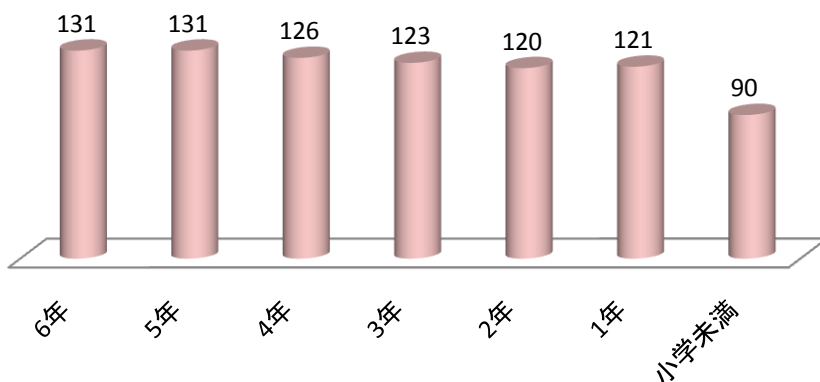
郡東 (回/週)



郡南 (回/週)

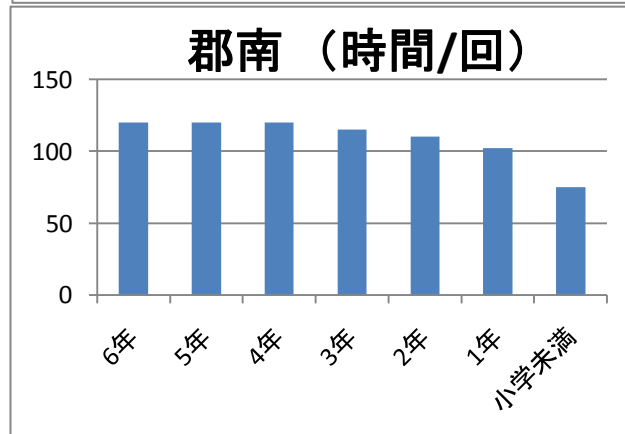
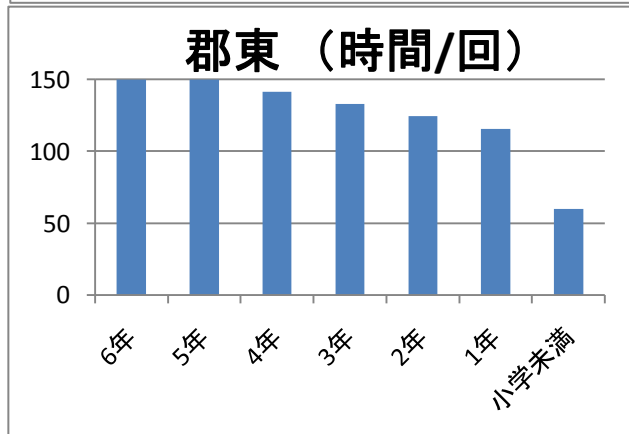
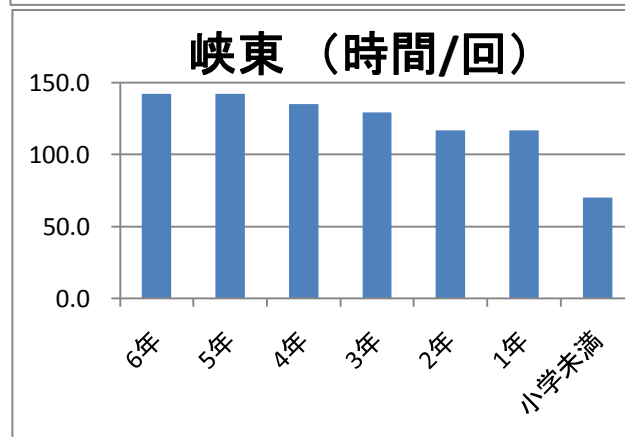
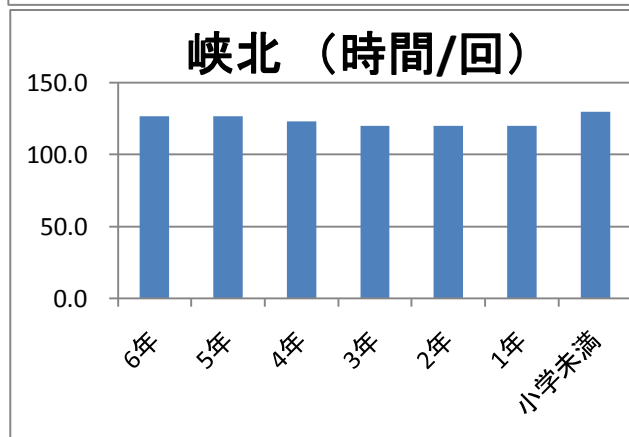
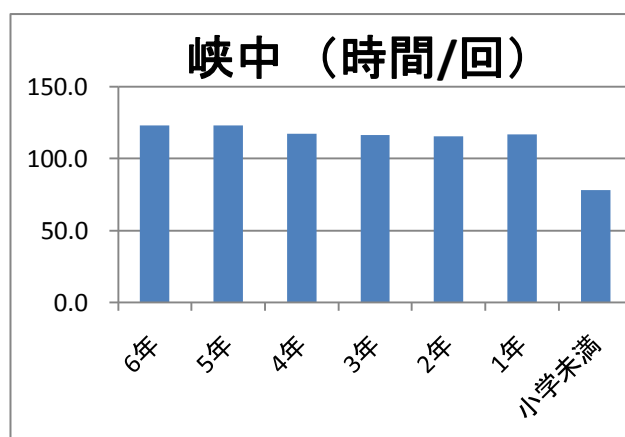
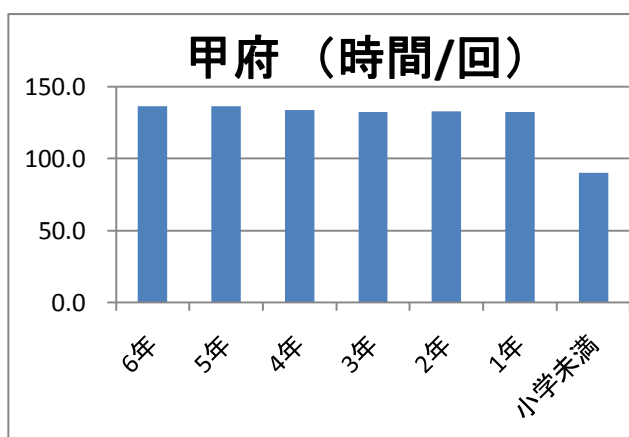


県平均活動時間(1回あたり)



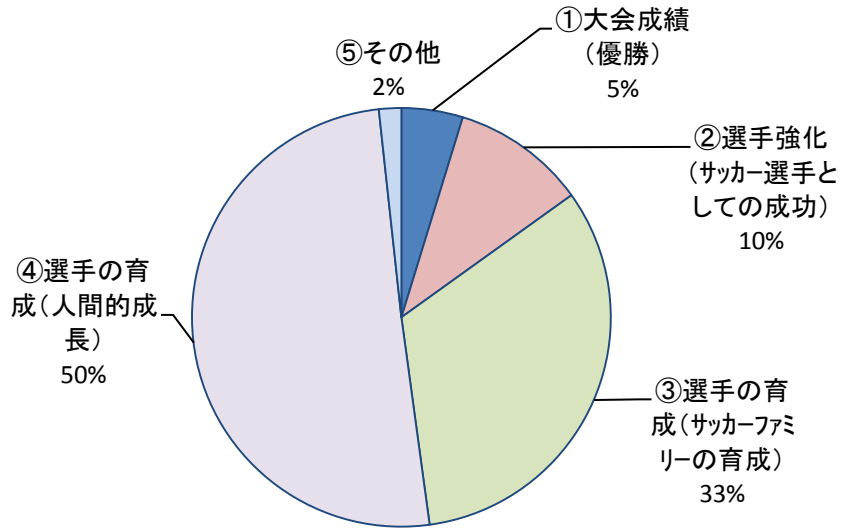
練習時間は、概ね2時間である。
地区別にみると、多少ばらつきがある。
郡東が長めの傾向があり、郡南、峡中が短めである。

地区別活動時間

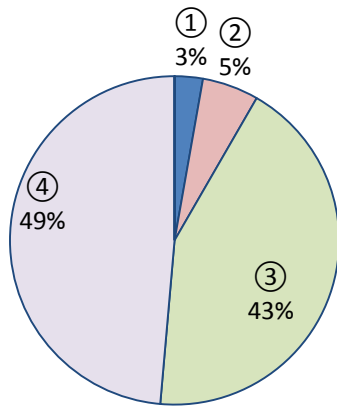


チームが目指すもの

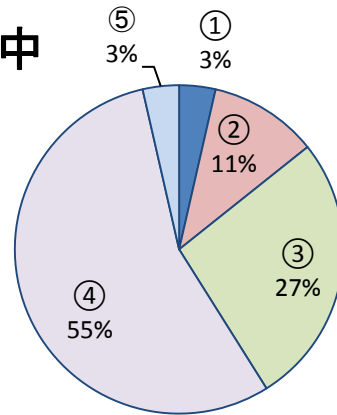
チームのコンセプトについては、把握に難しいものがあるが、優先順位をつけての複数回答を点数化によりデフォルメした結果である。
④「選手の育成(人間的成長)」、③「選手の育成(サッカーファミリーの育成)」にウエイトが置かれていることが分かる。
地域によって差はあるが、共通した意識が見て取れる。
郡南地区は、大会優勝や選手強化のウエイトが高くなっている。



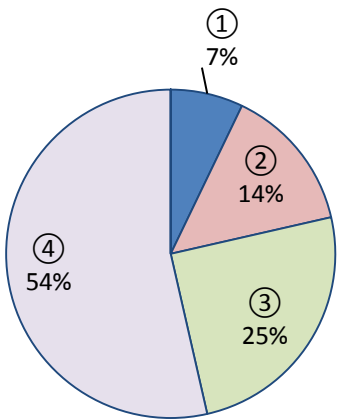
甲府



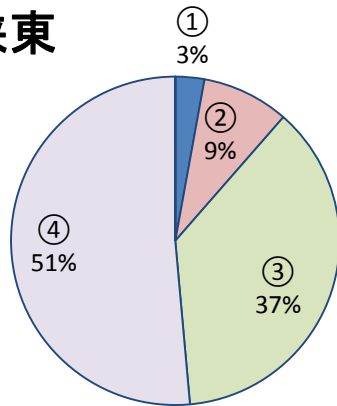
峡中



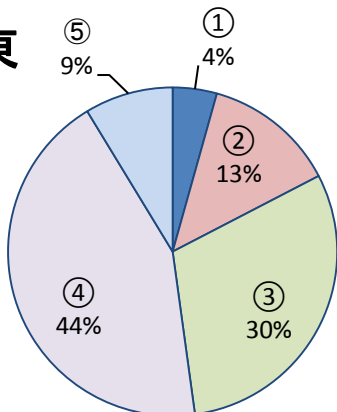
峡北



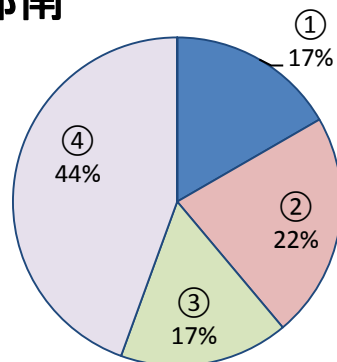
峡東



郡東



郡南



試合の目標設定

試合目標の設定も意識して取り組む必要があることからアンケートに加えた。

③「トレーニングの課題、成果を見出す」ことを目標にする中で、MTMの定着へとつながり、リーグ戦の活用が見えてくる。

②楽しむ要素は不可欠であり、動機づけの重要なポイントである。

①「勝敗にこだわる」ことも競技スポーツとしての1面であり、選手自身がどのように勝負を仕掛けるのかを考えることは必要である。

